

統計局事業所情報管理課統計専門職

辻 健太

Tsuji Kenta

平成25年 4月 総務省採用 統計局統計調査部国勢統計課
労働力人口統計室審査発表第一係平成27年 4月 併任 統計局統計調査部国勢統計課
労働力人口統計室企画指導第三係平成29年 4月 統計局統計調査部消費統計課物価統計室
企画指導第一係平成31年 4月 統計局統計調査部消費統計課物価統計室
価格調査システム係

令和 2年 4月 現職

いろいろな業務をいろいろな人と

「羅針盤」作成のための名簿整備

政府統計は、日本の社会経済の実態を把握し、適切な施策を実施するための道しるべとなる「羅針盤」だと言われます。この「羅針盤」作成のため統計調査が実施されますが、調査対象の選定に当たっては、全体を網羅した名簿が不可欠です。

企業や事業所が対象の場合、日本中の企業・事業所を網羅した名簿が必要ですが、現在、日本にある事業所は600万を超え、日々、改廃もあります。これら全てを名簿化するなど、気の遠くなる話に思えます。しかし、どうにかやらないと「羅針盤」は作れません。

私の所属する事業所情報管理課では、各種統計調査の結果や、労働保険や登記情報といった行政記録情報、企業ホームページなども手がかりに、企業・事業所の名簿情報を最新化し、「事業所母集団データベース」として整備しています。もちろん、一人でできる作業ではありません。関係各所と連携しながら、「羅針盤」作成の基盤となるデータを、みんなで地道に整備しています。

文化祭にも似た達成感

私は、統計局で、いくつかの統計調査に携わってきました。一言で「調査に携わる」といっても、その関わり方は様々です。調査の結果を審査・公表する業務にも携わりましたし、調査を実施するための企画業務や、調査の実施を支えるシステム基盤の担当となったこともあります。統計表のチェックや、システム設計書のレビュー、時には調査用品を詰める段ボールの調達まで、同じ統計局の中でも多岐にわたる業務を経験しました。

また、準備から実施まで2年間携わった「平成28年社会生活基本調査」の企画業務では、系のメンバーを始め、課内や他部署、さらには地方公共団体など、多くの人と関わりながら、5年に一度の大イベントの成功に向け、まい進しました。みんなで同じ目標に向かって突き進んだ調査を無事やり遂げた際には、文化祭のような達成感がありました。

総務省では、様々な業務が経験できます。皆さんも、興味があればぜひ目指してみてください。きっと充実した業務に出会えます。

PRIVATE TIME

以前は、ボウリングをしたり、テレビゲームをしたり、友人と飲み歩いたりしていましたが、最近ではコロナ禍、そして、好きな子供たちとの時間に充てるため、自分の時間はあまりなく、細々とテレビゲームをやる程度になってしまいました。その分、昨年は1か月の育児休業を取得するなどして、今だけの子供との時間をたっぷり満喫しています！

Q 総務省を志望するようになったきっかけは何ですか？

A 正直なところ、官庁訪問の際にふらっと統計局の説明を聞いたのが最初でした。大学時代に少し統計に触れていたこともあり、選択肢の一つとして、受けてみることに迷いはありませんでしたが、志望の度合いは、官庁訪問が進むにつれ強くなっていきました。「面接官が温かかった」という感想は、改めて客観的に見つめ直すと、若干浅はかにも思えますが、実際に入省した今となっては、この温かな環境を見抜いた自分を褒めてあげたいと思うほどです！

Q 今後取り組んでみたい仕事はなんですか？

A 今までの業務を振り返ってみると、一般の方からのデータの問合せ、調査の実施に向けた地方公共団体との議論、システムの仕様に関する委託業者との調整など、様々な人とのやりとりが印象深く思い出されます。統計は、作って終わりではありません。それを利用する人がいてこそ価値があります。人のためになる統計を、人とのコミュニケーションを大切にしながら作る仕事に、今後も取り組んでいきたいと思っています。

